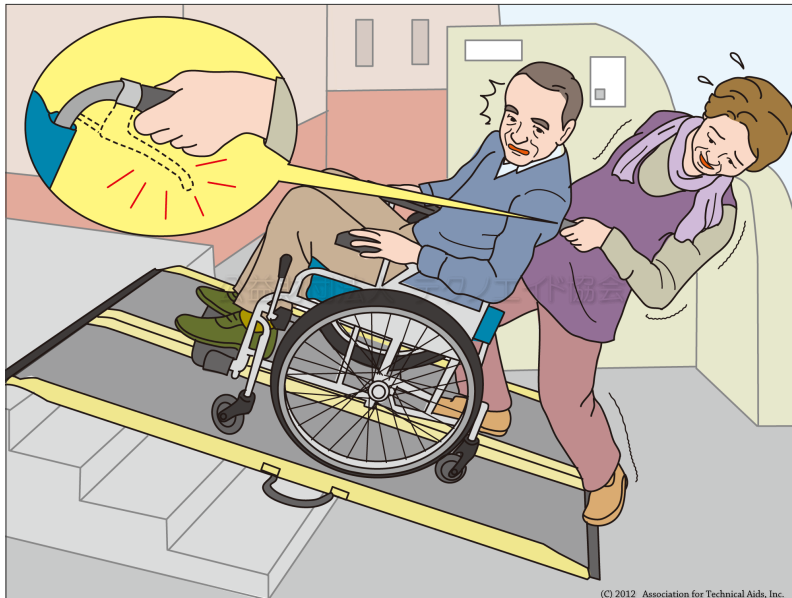


Case : 126

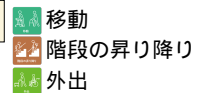
手押しハンドルにブレーキがついておらず、ひっくり返りそうになる

場面の説明

スロープで下りている際、車いすと利用者の重さを身体で受け止めきれなくなり、ひっくり返りそうになった



利用シーン



主な利用場所



介護保険の種目



分類コード(CCTA95) 122103(介助用車いす)

介護テクノロジー

-

二次元バーコード



解説

ゆるやかそうに見えるスロープでも、実際に介助してみると想像以上の重さがかかります。特に下りでは、身体で重さを受け止めるのではなく、ブレーキをかけながらスピードをコントロールすることで、身体的にも楽で安全に介助することが可能です。スロープでの介助が必要なときにはブレーキのついた製品を選ぶことが基本です。

参考要因

- 人：車いすと利用者の重さを受け止める体力がなかった
- 人：手押しハンドルにブレーキがついている車いすがあることを知らなかった
- 人：外出する機会があるにもかかわらず、ブレーキ付き車いすを提供しなかった
- モノ：ブレーキがついていなかった